

# 大型真空炉 生産増強

## 富士電波 滋賀工場拡張、能力2倍

富士電波工業（大阪市淀川区、横畠俊夫社長、06・6394・1151）は、主力の滋賀工場（滋賀県湖南市）を拡張し、大型真空炉の生産能力を約2倍に引き上げた。9月末にも稼働する。同社の大型真空炉は、車載・産業用モーターの磁性材料や車載用電池の電極を熱処理する用途、半導体向けファイナセラムミックスを焼結する用途などで受注が増えている。今後、顧客の要望に応じた解析サービスも始める。生産能力増強と解析サービスにより、2024年8月期に売上高50億円を目指す。



大型真空炉を生産する富士電波工業の  
滋賀工場（滋賀県湖南市）第3棟

### 実験施設で解析受託

滋賀工場の第3棟の敷地面積を従来比約2倍の1200平方メートルに拡張した。大型クレーン1台を追加したほか、エアコンを設置し作業環境も改善した。投資額は解体費を含めて約2億円。広い作業スペースを確保し、磁性材料や電池電極の熱

処理用途として使われる連続式大型真空炉の生産効率を高める。また同工場第2棟の一部を改築し、ショールームを兼ねた実験施設を21年8月期にも開設する。実験の受託事業を強化し、材料解析まで含めてサービス化する。多目的高温炉

「ハイマルチ」をはじめ、拡散接合用のホットプレス、カーボンナノチューブ向けの超高温炉などを導入して、幅広い解析に対応できるようにする。

同社は多種多様な工業炉を手がける。ただ半導体や電気自動車（EV）市場向け工業炉は、米中貿易摩擦の影響で足元の需要が鈍化しつつある。生産能力の増強だけでなく、解析サービスによって付加価値を高めて、景気変動に左右されない事業体制の確立を進める考えだ。